

テラドローン迎撃システム： 戦略的分析と多層防衛構想



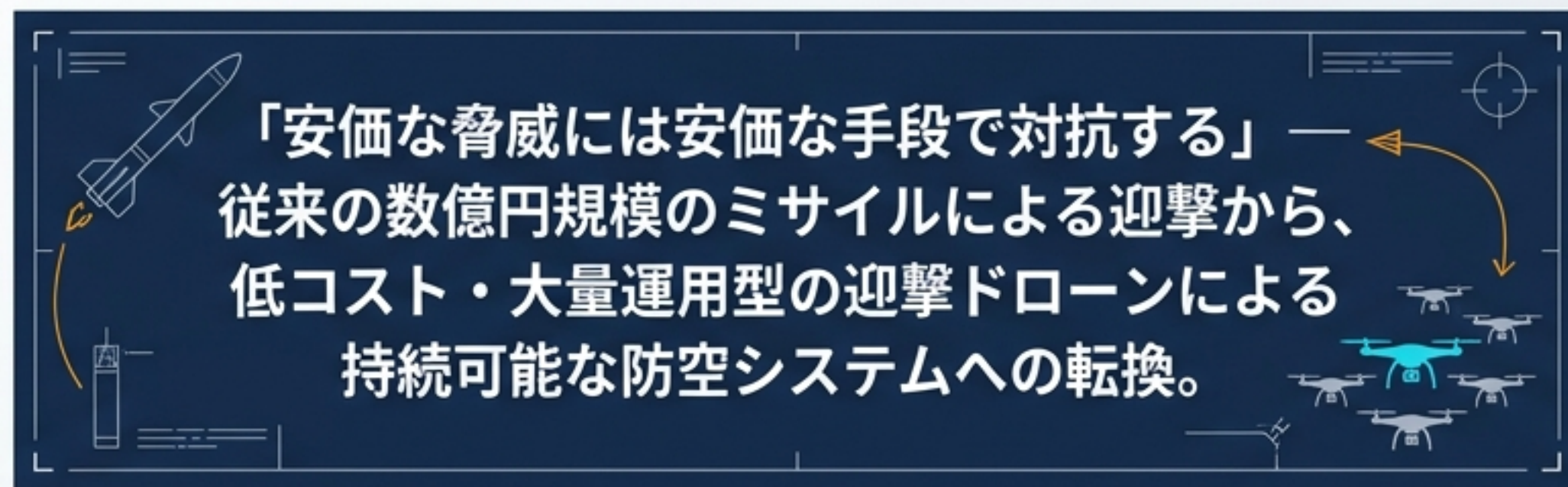
防空の経済的非対称性を打破する「Terra A1 / A2」
の全貌とグローバル戦略

対象企業：Terra Drone株式会社, Amazing Drones LLC,
WinnieLab LLC

分析基準日：2026年5月

ドキュメント属性：経営戦略・防衛技術評価レポート

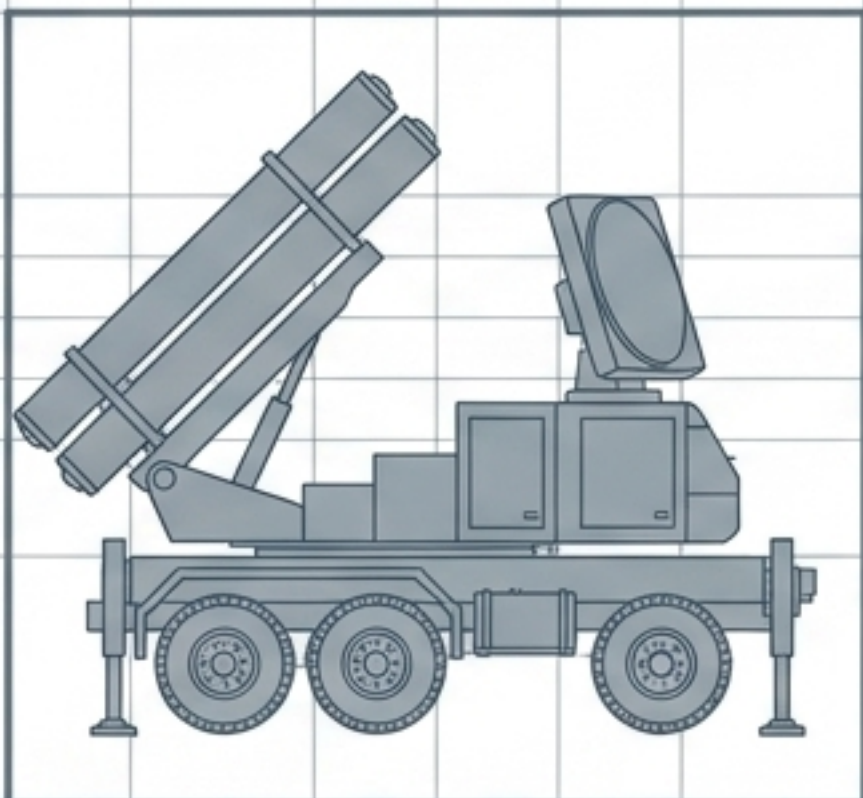
防空の新たな基本原則



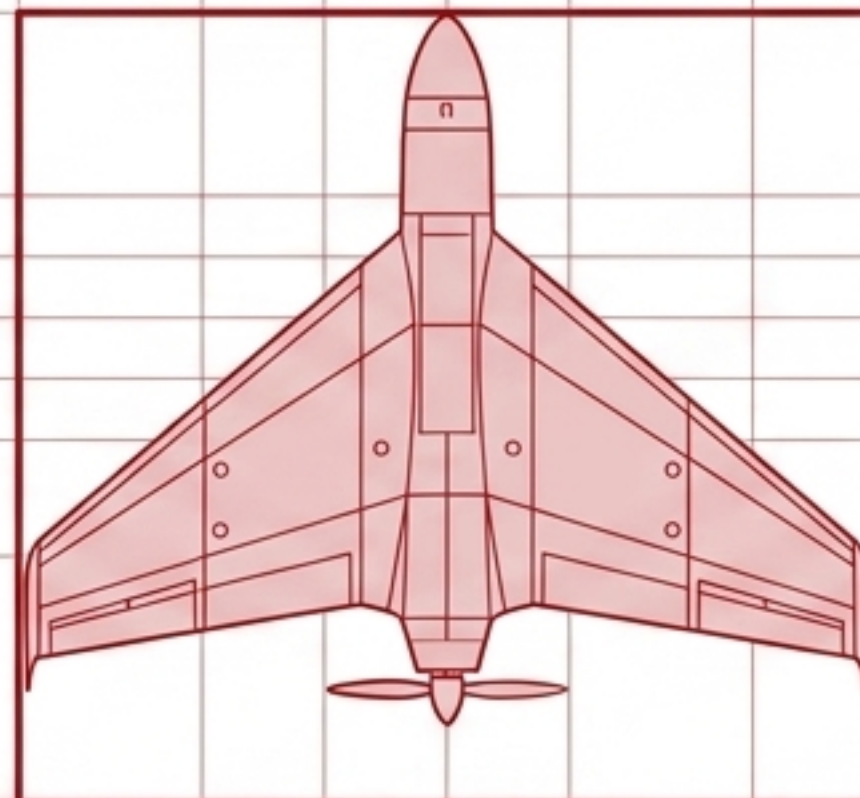
Rapid Deployment Timeline (2026年3月~4月)



脅威のランドスケープ： 防空における「コストの非対称性」



持続不可能性
(Unsustainability) —
数百万円の脅威を
数億円の兵器で撃ち
落とす経済的破綻。



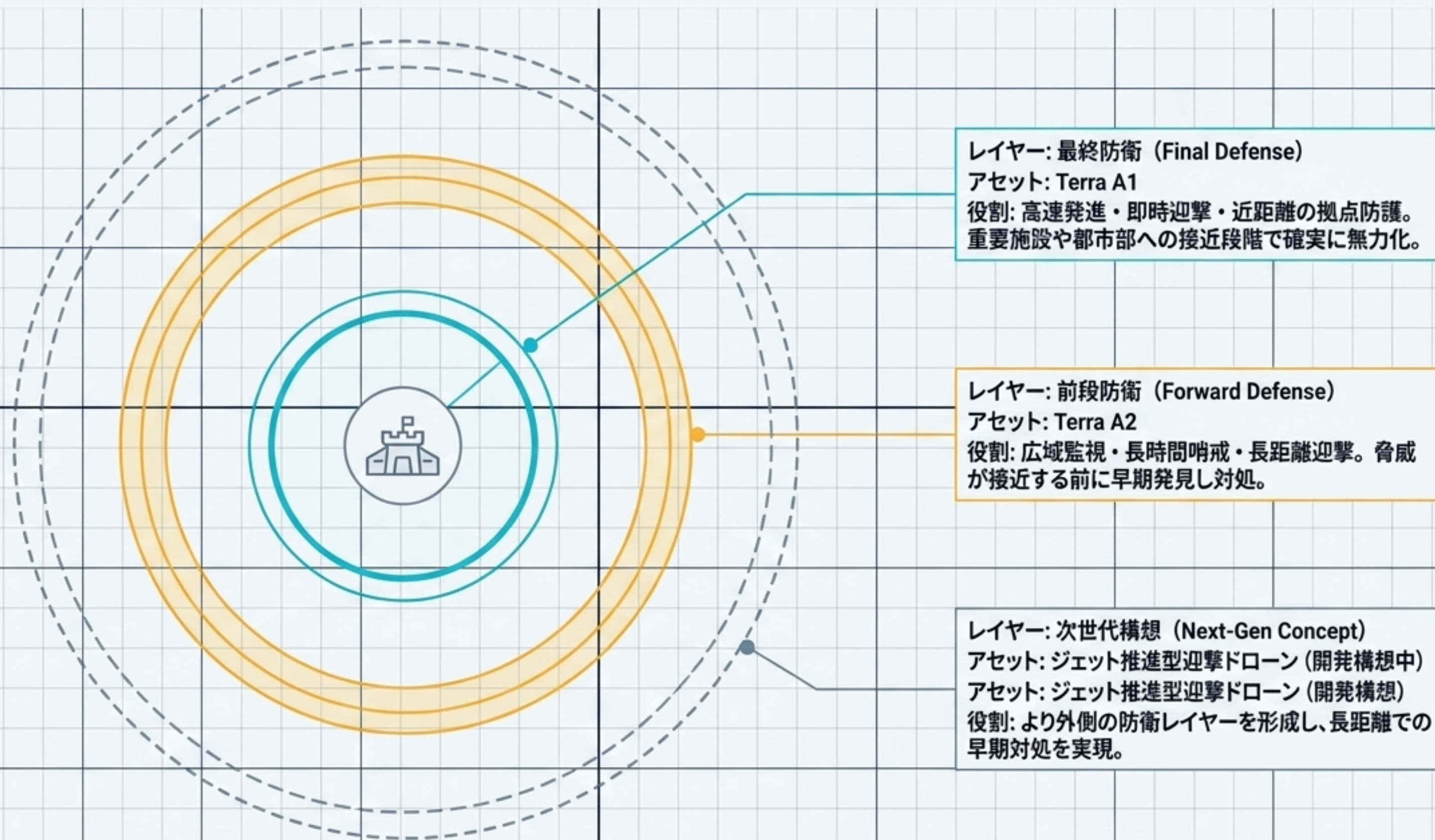
コスト指標: 数億円～ (高価・限られた備蓄)

戦略的課題: 安価なドローンに対して使用すると、弾道ミサイルや航空機など「高価値・高脅威」目標に対する防衛力が枯渇する。

コスト指標: 約560万円 (低コスト・大量生産)

戦略的利点: 飽和攻撃による防空網の消耗を強要可能。

コア戦略：多層型防衛（Multi-Layered Defense）構想



コーポレート・エコシステム：ウクライナにおける戦略的提携網

テラドローン株式会社（日本）

役割: 戦略的投資、グローバル展開推進、子会社（Terra Inspectioneering）を通じた支援

提携先: Amazing Drones LLC（ウクライナ・ハルキウ拠点）

製品: Terra A1（ロケット型・共同展開）

特記事項: 2026年3月に提携。ウクライナの一部隊へ導入済。

提携先: WinnyLab LLC（ウクライナ・ディフェンステック企業）

製品: Terra A2（固定翼型）

特記事項: 2026年4月に出資。機上電子機器・誘導システムに強み。

タクティカル・プロファイル：Terra A1 (近距離・即応型レイヤー)

最大300km/h

開発当初の250km/hから、テラドローン側の助言により向上。Shahedの典型速度(約200km/h)を凌駕。

カバー範囲 32km

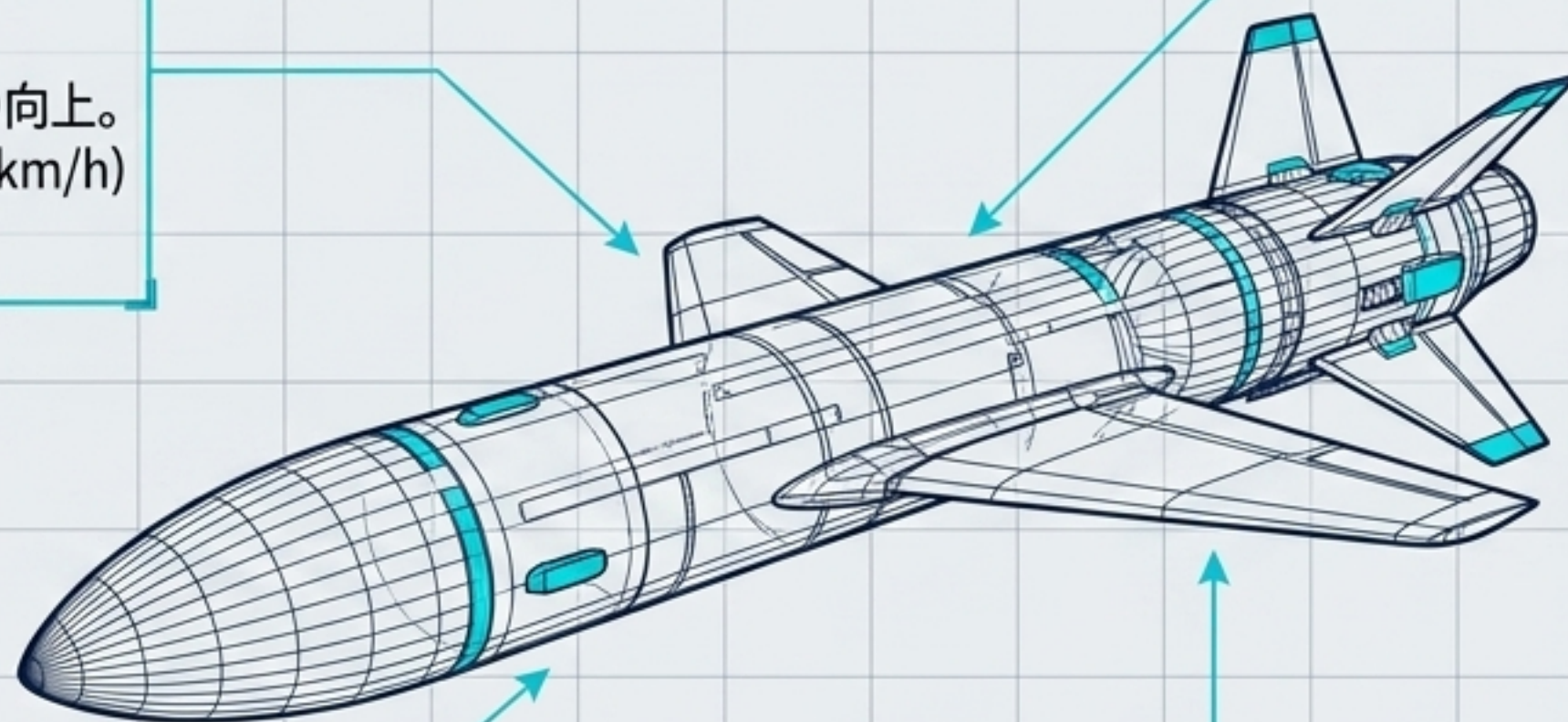
拠点防衛に特化した即応圏。

飛行時間 15分

目標検知から無力化までを最短時間で完結。

実戦投入済み

2026年4月より実環境評価開始。長距離無人機(Shahed型等)への衝突・迎撃成功が複数メディアで報じられている。

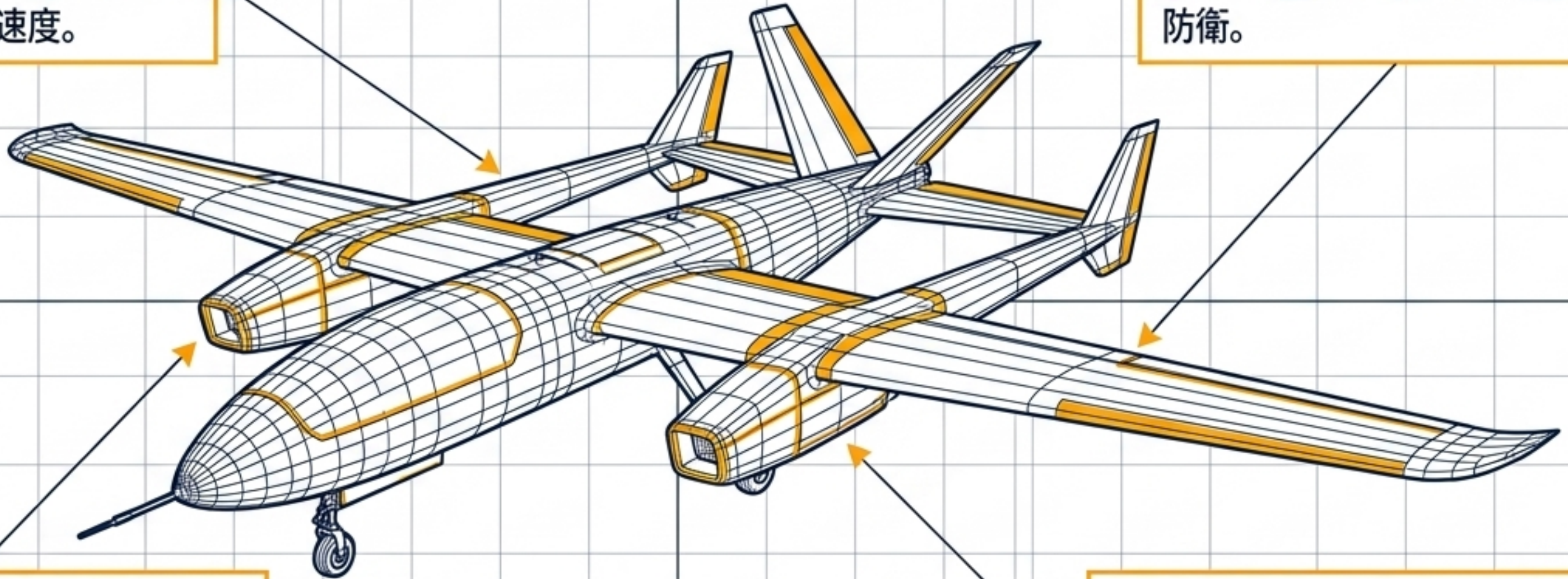


ワイヤーフレーム・ロケット型ドローン
(Terra A1)

タクティカル・プロファイル：Terra A2（広域・早期警戒レイヤー）

最大312km/h —
広大な空域を迅速にカバーする
ための巡航・迎撃速度。

カバー範囲 75km —
A1の2倍以上の広域を監視・
防衛。



飛行時間 40分以上 —
長時間の空域哨戒（パトロール）
と早期発見を可能にする持続力。

ワイヤーフレーム・電動固定翼型ドローン
(Terra A2)

レーダー連携運用 —
自機と目標の位置を高精度に把握
し、広域監視から迅速な対処へシーム
レスに移行する設計思想。

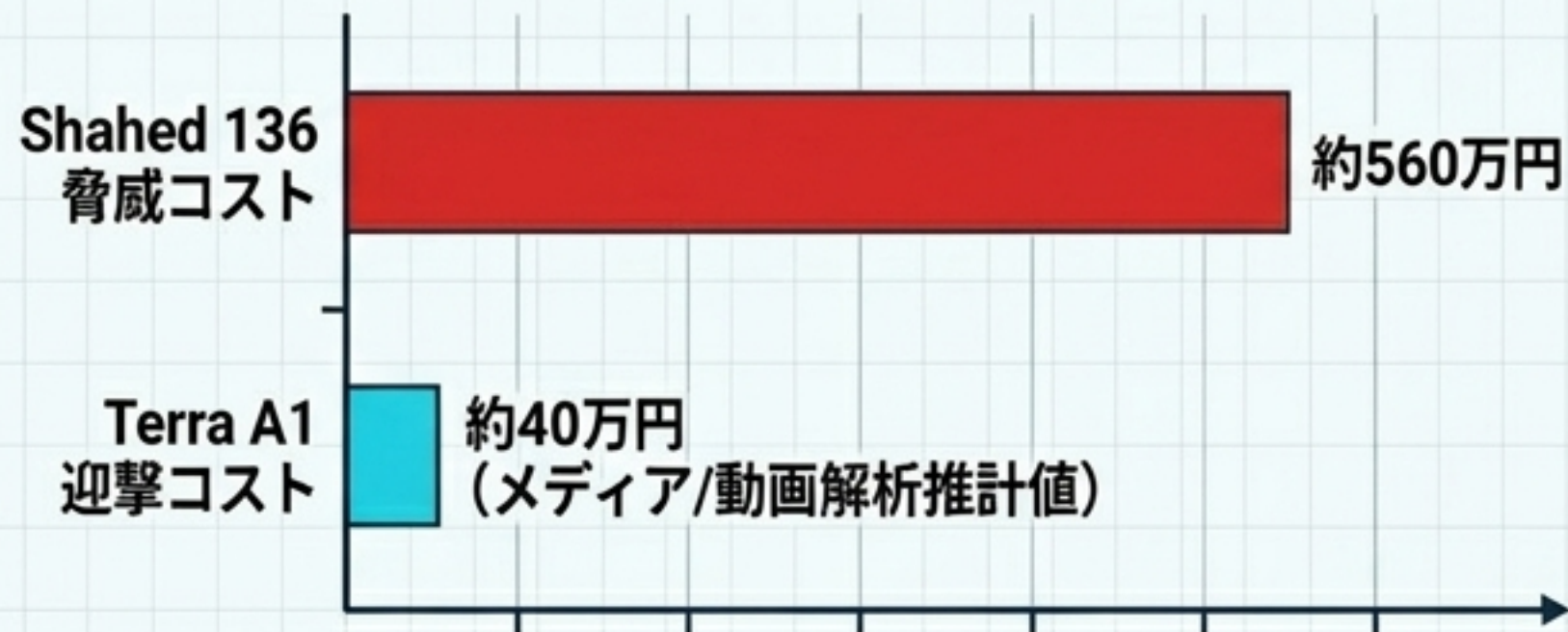
システム診断マトリックス：A1 / A2の戦略的棲み分け


	Terra A1	Terra A2
防衛レイヤー	最終防衛（拠点防護）	前段防衛（広域・早期警戒）
開発パートナー	Amazing Drones LLC	WinnyLab LLC
機体フォーム	ロケット型迎撃機	電動固定翼型迎撃機
最大速度	300km/h	312km/h
カバー範囲	32km	75km
飛行時間	15分	40分以上

A1とA2は単なる「旧型と新型」の関係ではなく、空間と時間を分割して脅威を網羅する「相互補完的なシステム」として機能する。

迎撃の経済学：持続可能な防衛ROIの実現

COST EFFICIENCY VISUALIZATION



 **結論インジケータ：
コスト比 14:1**

「数億円のミサイル」から「40万円のドローン」へ。迎撃ごとの経済的損失を劇的に逆転させ、持続可能な防空網を実現。

PRODUCTION SCALE



**目標生産キャパシティ：
月産1,000機規模** (ウクライナ国内での目標値)

解説：低コスト化と同時に「大量生産性」を確保することで、脅威の飽和攻撃（スウォーム戦術）に対して、同等以上の数で対抗可能な供給網を構築。

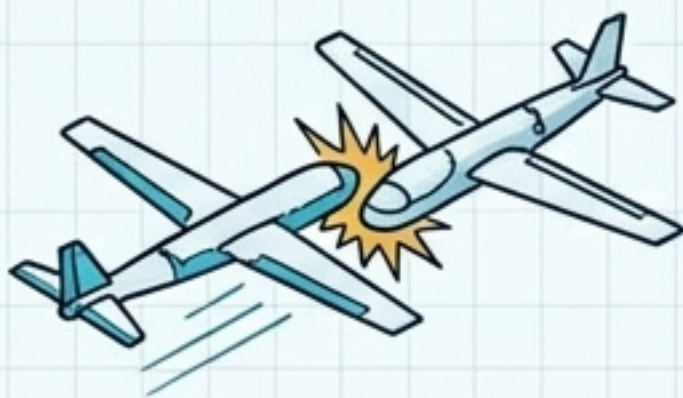
テクノロジー評価：事実と将来構想の分離（AIと自律交戦）

Capabilities Spectrum

Confirmed / Operational - 確認済み事実

機能：
物理的衝突（体当たり）による迎撃

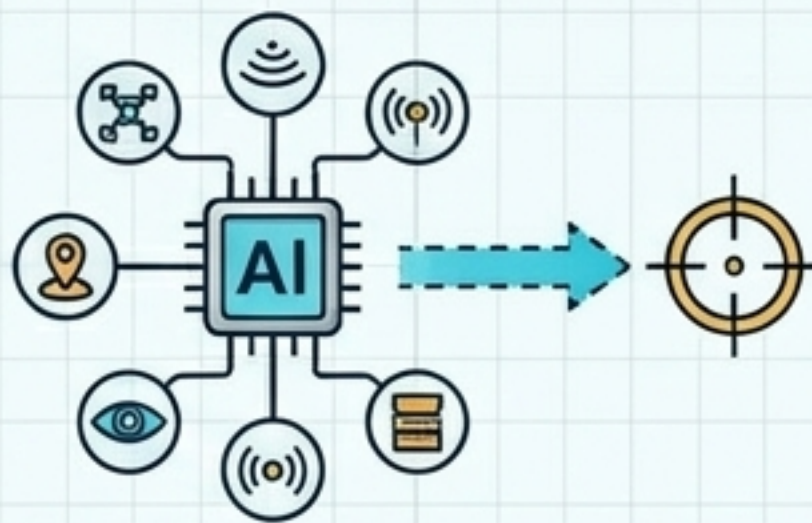
状態：
Kyiv Independent等で「目標到達前に破壊する」衝突型コンセプトとして報じられ、実戦での成功事例も確認済み。



In Development - 開発・統合フェーズ

機能：
AI統合プラットフォーム

状態：
自律的な目標検知・交戦を可能にするためのAI統合が重要な開発方向性として報じられている。



Unconfirmed - 公式未発表

機能：
AIによる完全自動追尾・完全自律交戦

状態：
現行機の詳細な自律交戦能力の範囲は、テラドローンの公式資料上ではまだ明示されていない。実戦データの蓄積が今後の鍵。

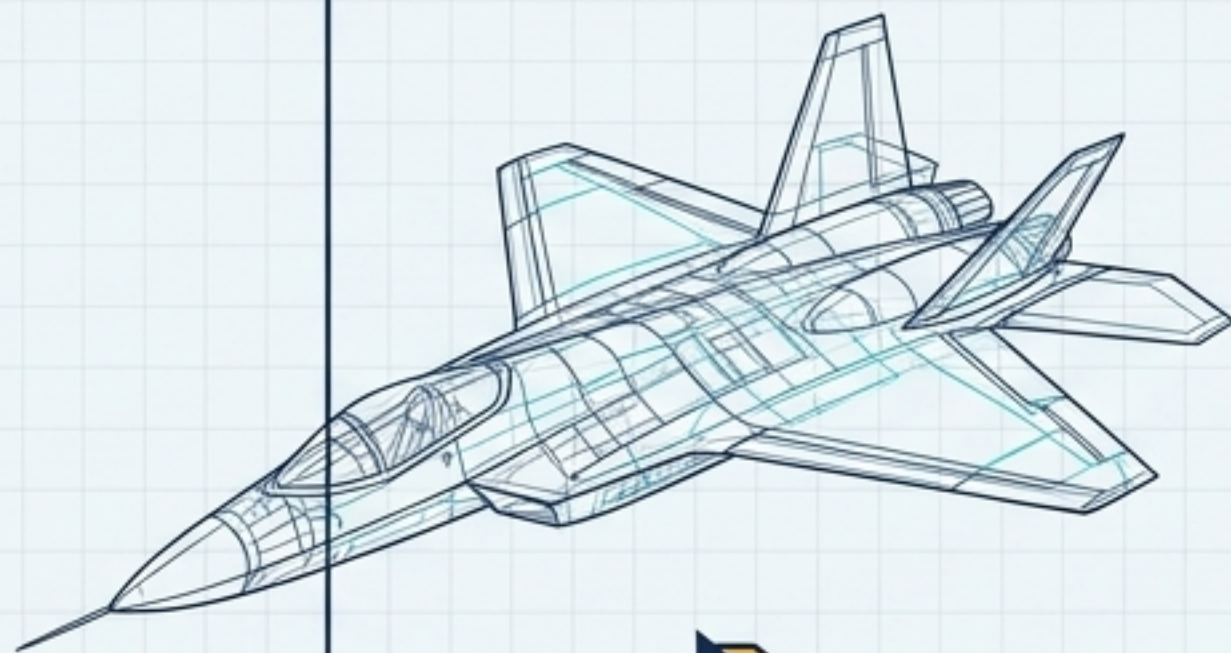


※ 本評価は公開情報、メディア報道、及び公式発表資料に基づく。

地政学的コンテキスト：日本の輸出規制緩和とグローバル展開



戦略的シンセシス：防空の未来とテラドローンのロードマップ



次世代構想（ジェット推進型）－
最大440km/h、運用距離140kmの
次世代レイヤー構想がメディア
で報じられており、防衛網のさら
なる外延拡張が視野に入ってい
る。

概念の証明

(Proven Concept)

短距離(A1)とリフトフィークスケップ

短距離(A1)と広域(A2)の多層化により、高額なミサイルへの依存を断ち切る新ドクトリンが実戦環境で証明されつつある。

生産と法の壁

(Scaling & Compliance)

ウクライナ&アニメーションサロール

今後の焦点は、ウクライナでの量産体制確立(月産1000機)と、日本をはじめとする各国の法制度・供給網への適応に移る。

AIと統合実証

(AI & System Integration)

AI&システム実証

単なる機体の性能競争から、レーダー連動・AI自律交戦を含む「多層防衛システム全体の統合実証」が次の競争領域となる。